

## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間: 2017/08/17 ~ 2017/ 08/31)

|||||

### 1. 勉学の状況

UIC (University of Illinois at Chicago) のSpecial Education (特別支援教育) 分野の修士レベルの授業を3科目受講することができ、8月28日(月)から始まった第1週を終え、これからの授業の流れがつかめてきた。この大学では授業がレベル別に番号分けされており、修士の授業は大体400~550、博士課程になると600以上というように授業コードから自分にあったレベルが選べるようになっている(特別支援教育の授業はSPED463のように表示される)。大学院で授業を受けている特別支援教育の生徒はほとんど現地で学校の先生などをしており、授業は「発達・知的障がいの疑いのある児童1人」に対して支援を行い、アセスメントやスクリーニング検査を行った経過を持ち寄って議論をする。というような内容のものがほとんどであり、対象となる子どもにアクセスがない生徒はクラスの誰かに協力を求めることで乗り越えていくことが求められている。



初回授業はシラバスを参照しつつクラスメイトとの自己紹介タイムなどあり和やかな雰囲気であったが授業時間は3時間のため集中力が求められる。ほとんどの授業が細やかに評価基準が設けられており、出席・抜き打ちテスト5回・中間レポート・授業での質問(応答)などの観点ごとにはっきりと点数が振られている。教授とのコンタクトもメールやポータルサイトを通じて行うことができるので学習環境は整っていると感じた。

### 2. 生活の状況

17日に渡航してから、2日間は高校時代のホストマザーとシカゴに滞在して19日からはキャンパス内にある学生寮(家具付きベッドルーム2部屋、ユニットバス・キッチン・ダイニング共用、テレビなしのアパートメント1室)にチェックインして生活している。ルームメイトは中国系アメリカ人で年齢も近いため趣味や生活スタイルも合い、良い関係を築けている。気温は思ったよりも暑くなく、むしろ半袖半ズボンで過ごすには肌寒さを感じるくらい涼しいので冬はかなり厳しそうだ。

言語使用に関しては思ったことを伝えようとすることはできるが、論を展開するには至らないので場面をたくさん設けて話す練習を積みたい。買い物やエレベーターに乗り合わせたときの会話場面などは文化の違いに戸惑ったが、簡単な挨拶のようなものなので慣れてきた。

## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間: 2017/09/01 ~ 2017/09/30)

|||||

### 1. 勉学の状況

授業も5週目を終え、ミッドターム(Midterm) と呼ばれる中間試験の季節が近づいて来た。こちらの大学ではどの授業にも共通して授業期間の半分ほどで中間試験や中間レポートや課題の発表などが課される。私の出席している授業でもテストやレポート課題作成が課せられてるため、10月は忙しくなると予想される。

グループワーク、ディスカッション形式の学習、ビデオや資料の予習など授業の雰囲気にはやっと慣れ、授業前にクラスメイトとその日の出来事や授業の話をする余裕も出てきている。学習の進捗として明確にあげられるものは、発達障がいの可能性のある子どもを対象としたESI (Early Screening Inventory)などのスクリーニング検査や、アセスメントの実施・採点の方法を授業の中で練習したことである。この大学(UIC)には、主に発達障がいを専門とするクリニックがあり、教授は実際の例を用いて授業を行っているのととてもわかりやすいと感じている。日本では特別支援教育を専門に勉強していないが、アメリカでの支援体制を支える法律や理論を授業で学ぶうちに日本の法律や各都道府県ごとの特別支援教育にも興味を持って学習を進めることができている。Special Educator (特別教諭)を目指して授業を受けている学生もいるが、現職の先生で授業を受けている人たちの多くは通常学級の担任で、発達や学習に困難を抱える生徒たちのためにSPEDの知識や資格を得るといった目的を持っている。私としても通常学級の担任として、困難を抱えている子どもを適切な学習環境に導くことができるような正しい知識を得ることを目標に授業にのぞんでいきたい。

### 2. 生活の状況

今月に入ってから、金曜日の午後3時 - 4時半の時間で「英語を話す会」のような催しに毎週参加するようにしている。参加者は学部から院生まで約20人ほどで、大半がアジア系(中国、韓国、台湾、タイ、インド)でスペインやロシアから来た学生なども英語学習者として参加している。基本的にはあるお題がセミナーを主催する先生によって毎回用意されており、そのお題について自分の意見を1人ずつ発表したりグループで話し合ったりという活動を楽しみながら行っている。そこで友達になった学生たちとご飯を食べに行くようなこともあるため非常に有益な会であると考えている。

この辺りは雨が少ない地域なのか、2週間に1回降るか降らないかの頻度で乾燥が厳しく、朝目覚めたら喉がガラガラになっているというのもしばしば。また、9月は気温の上下が激しいため、風邪の予防には注意を払っている。定期的に運動をする習慣もつけられるようにしたい。

## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間: 2017/01/01 ~ 2017/10/31)

|||||

### 1. 勉学の状況

→ 学校の勉強もMidterm (中間試験) の期間が過ぎ、期末のプロジェクトに向けてさらに実践的な授業内容になってきた。ある授業では英語の読み書き学習に困難を持つ子どもを対象に音素意識(phonemic awareness) を育てる指導を少人数グループの学生同士で実演し、アルファベットの音素の分割、合成に関わる知識とそれを「教える」授業というのを練習することができた。その他の授業においては、主に発達障害のアセスメントやスクリーニング検査の資料を用いた評価練習を行い、現在までに10を超える検査の実施・評価・分析の方法を学んだ。特に未就学児、小学校低学年の言語分野の発達を測る検査についてはこの国での言語発達の基礎を測るために作成されたものなので重要なソースとして活用できると思っている。

毎週月曜日は、近隣の小学校二年生の教室にて1日を通して観察を行なっている。もちろん授業の一環で対象とする児童を主として観察するのだが、教室に常にいるため他の児童とも話したり学習補助に参加したりするためアメリカ版「たまプロ」のようである。日本とは全く違う学習をしているためかなり勉強になる。電子黒板の使用や特別支援体制の差、清掃環境についても日本との差異を感じるが、絵本の読み聞かせ、移動教室の整列など共通する部分もあり興味深く観察をしている。写真はある日の給食のもので、自分でお弁当を持ってくる代わりに給食費を払って食堂で給食を受け取る方式である。なので食堂にはお弁当持参の子どもと給食の子どもが混在している。



### 2. 生活の状況

→ ハロウィンが10月の最も大きなイベントとして掲げられており、子どもも大人も仮装をするのが常識らしく、10月31日は火曜日だったため学校に仮装をしたまま登校し、教師も仮装をして授業をしていてかなり不思議な光景だった。普段は大人しい児童や落ち着きのない児童も仮装をすることで自分に自信がもてたり、授業と仮装のメリハリをつけようと先生が声をかけるのに対して素直に従っていたりした。学校のおわりに、小学生全員が校内を仮装して歩き回る「パレード」が開催され、クラスでも児童の親が持ち寄ったお菓子などでパーティーをし、盛大に祝っている様子だった。11月はいよいよ寒さが本格的になってくるそうなので防寒と体調管理を徹底したい。

## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間: 2017/01/01 ~ 2017/11/30)

|||||

### 1. 勉学の状況

→ 11月は期末に向けて課題を多く提出することになり、レポート作成に時間を費やしてしまったため自分の研究に思うように時間を割くことができなかった。現在受講している授業の成績がリアルタイムで反映されていくシステム（課題レポートや小テストの点数が加算されていく）はかなり画期的でモチベーションが高まる。授業のなかでIEP (Individualized Education Plan/ Program) が適応される障害について各週学生が発表するFact Sheet Presentation では学習障害を担当し、英語を用いたプレゼンテーションに挑戦した。授業中の発言は難しいが、プレゼンテーションや発表ならば少しは自信を持って取り組むことができそうだ。

小学校の観察は毎週月・水曜日に増え、児童たちとの信頼関係も生まれてきたように感じ、改めて小学校教員になりたい気持ちも確認できた。学級全体の授業参観に加え、IEP(個別の指導計画)をもつ児童の言語、社会性スキル、算数の能力などの検査ツールを使用してのスクリーニング、診断の練習を授業の一環で行うことで実際の児童のデータでレポートを作成するなど実践的な学びができています。さらに、この学校ではRTI (Response to Intervention/ Instruction) のシステムを導入しており、学校全体で支援を必要とする児童を見落とさないような工夫がされている。RTIについては修士論文にも関連する事柄なので実際の学校現場でどのような活用がされているのかより詳しく見ていきたい。この教室は来年わたしが派遣期間を終えるまで観察することを許可していただけたので継続して観察していきたいと思う。

### 2. 生活の状況

→ 今月の17日から24日にかけてテキサス州ヒューストンにあるホストファミリーの家でホームステイをした。高校生の頃に訪れた現地の高校やショッピングモールにも行き、懐かしい雰囲気味わいつつホストブラザーの成長した姿に驚いたりもした。ヒューストンは先日のハリケーン”ハーヴィ”の爪痕がまだ残っており、浸水被害にあった店舗の修復などまだまだ細かいところで災害は終わっていない様子だった。現地で最も驚いたのは気温で、シカゴは出発日-2℃だったのにヒューストンは28℃とまさに北海道と沖縄ほどにも違う気温差に戸惑った。

23日はThanksgiving day (感謝祭) でホストマザーの手料理（七面鳥のグリルとクランベリーソース、スイートポテト、スパイシーチキン）を楽しんだ。



## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間: 2017/12/01 ~ 2017/12/31)

|||||

### 1. 勉学の状況

→ 12月は2週目までが授業で、最終回や期末レポートを提出する時期になるため評価方法の確認や提出期限について教授の方から連絡や学生からの質問が飛び交っていた。ほとんどの教授が最終回にpot luck (お菓子や飲み物・食べ物などを持ち寄って食べる会) を企画し、学生も各自1品ずつ持ち寄ることがほぼ暗黙の了解のごとくなされている。以下に今学期の授業の最終回と期末課題をまとめた。

#### 授業の最終回・評価のパターン

【最終回はCase Studyまとめプレゼン+感想レポート】

学期を通して観察・支援した生徒についてのプレゼン発表(ポスター形式) を pot luck を行いながらする。内容は生徒の学習背景、障害と個別の学習計画の種類、観察と検査の結果をまとめたものだった。最終課題は期限を別に設けてあり、余裕を持って終わらせることができた。

【グループ発表+最終課題提出 (Case Study報告書)】

障害をもつ生徒を含むインクルーシヴ教育をテーマに、小学校理科の分野を選択して単元の指導計画を考えて発表するというもの。合計3回の授業で作り上げた計画とグループで工夫したポイントを説明した。これもpot luck をしながらなので手元には飲み物や食べ物を持って参加している学生が多かったが、私はあまり慣れておらず自分が持参したお菓子をつまむくらいしかなかった。

【普通に授業+期末レポート10枚】

授業の15回目をこれまでの授業と同じように講義形式と質疑応答で行い、期末レポートの内容と期限を確認して授業は終了。当日のプレゼンや提出物はないが、期末レポートの作成が大変だった。

### 2. 生活の状況

→ 学校に通うのが辛くなるほど外気温が下がり、晴れの日でも最高気温が2~3℃になることがしばしばで寒さを実感している。小学校への訪問は週2ほどで続けているが、寒すぎてrecess (業間休み) を行わない日などがあり影響が出ている。12/14にはクリスマスコンサートがあり子どもたちの発表を聞くことができた。



## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間: 2018/01/1 ~ 2018/01/31)

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

### 1. 勉学の状況

→ 1月からは春学期(2018 1月~5月)のため、新たに4つの授業を受講する。今期は英語論文の執筆に役立つアカデミック・ライティングの授業や、障がいを家族や社会の視点から考える授業など特別支援教育の授業以外にも挑戦している。秋学期から受けている教授の授業では、クラスメイトと再会の挨拶と休日の思い出について話すことができた。

今期、特別支援の授業では、Blended (最近インクルーシブと同義に使われるようになった言葉) をメインテーマにした授業が展開されており、通常学級で発達障がいや学習障害を持つ子どもがクラスメイトと一緒に生活し学習するための教師の手立てやカリキュラムの立て方、評価の方法、などを学んでいる。これは日本のインクルーシブ教育計画にも関連する事項のため積極的に追究していきたいテーマでもある。月曜日と水曜日には現地の小学校に観察および個別の指導計画(IEP: Individualized Education Plan)を受けている児童の支援という形で引き続き二年生の教室に入っている。ESL (English as Second Language: 母国語が英語ではない) の児童は年に幾度か母国語と英語の両方の言語習得のテストを受け、その結果によってESLの支援を受けるか否かを判断する。この学級のおよそ半数(約10人)ほどがESL支援を受けており、もうESLの対象ではないが家庭で英語以外の言語を話す児童が5~6人いるのでこの地域の子どもたちにとっては第二言語としての英語というのは当たり前の状況のようだ。

### 2. 生活の状況

→ 外気温は日中でも-5°C前後で夜間/早朝は-10°Cまで下がることもしばしば。しかし雪はあまり降らないので交通は滞りなく学校に通うことができている。ここからは少しずつ暖かくなっていくそうなのであと少しの辛抱である。

シカゴでは1月の中旬にMuseum Week「芸術週間」なるものが存在し、市内の住人は普段は入館料2,500円ほどする美術館や水族館を無料/特別料金で楽しむことができる。私もシカゴ美術館とShedd 水族館に無料で入館した。

2月はSuper Bowl と平昌オリンピック 2つの大きなスポーツイベントがあり、学校での話題も増え、英語使用の機会も増えそうだと期待している。



## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間: 2018/02/1 ~ 2018/02/28)

|||||

### 1. 勉学の状況【現在受講している授業と研究テーマについてまとめ】

#### - SPED 466 Language Development, Diversity, and Disabilities

Culturally and Linguistically Diverse Children(文化的・言語的多様性をもつ児童生徒) に対するリテラシー指導、言語発達と障がい、読み書きに関する学習障がいについて学齢期の児童にフォーカスしたディスカッションを行っている。

#### - SPED 508 Methods of Instruction and Assessment of Young Children with Disabilities

前期に受講していたSPED506の続きで、児童の認知・行動・言語発達のアセスメントから個別的指導計画および教育的介入のプラン設定と実践を行う。

#### - DHD 494 Disability and Education

障がい(Disability)を持つ人々(児童生徒に限らず)の人権を社会に認められるまでの背景、教育的支援・サービスの仕組みと家族の関わりについてSpecial Education TeacherやSocial worker からの視点で考える。

#### - ASP 095 Academic & Professional Writing for International Students

修士論文などを英語で執筆する上で必要な論文執筆用の決まりごとや論の進め方など細かく授業で学習し、毎週の宿題を教授に添削してもらうことができる。

研究のテーマ(現時点)「第二言語習得における読字障害(Dyslexia)のアセスメントと教育的介入～RTIモデルをもとに～」

- Responce To Intervention (RTI) という、学術的に有効な指導を行いそれを学習者の進展に合わせて改善するモデルを用いて「少人数で重点的な指導が必要な学習者」さらに「個別的指導が必要な学習者」を絞り込み、児童生徒の必要とする支援を適切に提供するとともに学習障がいの可能性のある児童生徒の発見を論理的に進めることができるとされている。このRTIモデルを用いたスクリーニングを読字障害(Dyslexia)に応用するにはアメリカでのL1 English と日本でのL2 English としての差をどのようにして埋めれば良いのだろうかという点が課題になっている。
- 現在、シカゴの多くの公立小学校(Chicago Public School)ではRTIモデルを用いてESL (English as Second Language) や算数、ELA (English Language Arts) における遅れのある児童の特定と特別教育サービスの審査を行っており、実践的な教育システムとして確立されていると判断できる。

今回は帰国が近づきつつあるため、自分のテーマをはっきりとさせておくことも重要と判断し学習面の報告を主に行った。

## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間: 2017/03/01 ~ 2017/03/31)

|||||

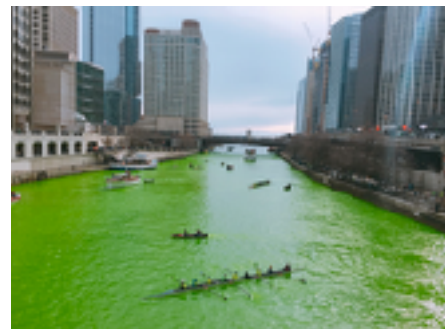
### 1. 勉学の状況

→ 現在受けている授業では、特別な支援を必要とする児童生徒の学習計画を担当が特別支援教諭と協同して作成する「個別の指導計画」の英語版”Individualized Education Program (IEP)”の書き方や目標のたて方を事例研究を通して学習している。アメリカ合衆国では州ごとの差は多少あるものの、ディスレクシア児童生徒を含む学習障がい（またはその疑いのある児童生徒）にも適用されているシステムのため、第二言語習得の観点からディスレクシアを考える場合に自分の研究テーマである日本語母語話者における英語習得学習時のディスレクシア児童生徒のスクリーニングとその後の学校での支援の方向性に関連すると感じた。

さらに、発達障がいや自閉症スペクトラムの児童生徒への機能学習支援計画や生活のルーティンに組み込んだ学習を効果的に実施するための介入の程度や頻度の工夫についても「最大限の支援から少しずつ支援の程度を下げて」学習した行動を「最低限の支援から少しずつ支援の段階をあげる」ことによって身につけているか確認しながら進めていく体系的なシステムを学ぶことができた。

### 2. 生活の状況

→ アカデミック・ライティングの授業を受講している留学生同士の交流が盛んに行われており、先日のSt. Patrick's Day (アイルランドの記念日) では緑色に染まるシカゴの川とパレードを観に向かうなどして過ごしている。気温は3月でも波があり、暖かい時は13度前後と厚手のコートなしで外出できるほどだが、寒い時は-5度~0度と防寒具なしでは凍えてしまうほど寒く雪の降る日もある。



アメリカの学校には春休み(3月末の1週間)があり、4月の頭にあるイースター(復活祭)のイベントも行われる(主に12歳以下の子どもを対象とする)。この期間中、左の写真にあるように留学生同士で料理を持ち寄って集まりが開かれ、インドや台湾の手作り郷土料理を味わった。自作の巻き寿司はなかなかの売れ行きであったが、「クレヨンしんちゃん」が共通の話題となったことは驚きであった。



## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間: 2018/04/1 ~ 2017/04/30)

|||||||

### 1. 勉学の状況

→

授業は佳境を迎え、プレゼンテーションや課題レポートの時期になった。今回もほとんどの教授が最終回にpot luck (お菓子や飲み物・食べ物を持ち寄って食べる会) を企画し、私も今回はその習慣に倣ってチョコレートがけプレッツェルを持参した。DHD494の授業 (社会的視点に立って障がいを捉える) では、メディア・プレゼンテーションという、学生があるメディア (映画・コミック・アニメ) からひとつ障がいがクローズアップされた作品を選び、どんな障がいなのか、その障がいは社会から見るとどう定義されるのか、そしてその障がいはメディアでどのように描かれているのかをプレゼンするものであった。私はglee (邦題『グリー: 踊る合唱団! ?』) の登場人物から発達性読み書き障害 (=ディスレクシア) を告白するキャラクターとそのスクリーニングの過程や周囲の障がいに対する捉えかたなどをまとめた。プレゼンテーションについては今までで一番うまくいった気がする。

### 2. 生活の状況

→

友人・ルームメイトとも関わる最後のチャンスになってしまった。金曜日の英語コミュニケーション講座やOIS (海外留学生課) のイベントで知り合った学生たちとお別れパーティを兼ねたご飯会をあちこちで開催した (帰ってから測ったら体重は出国から5kgも増えていた)。小学校にもお別れを告げるため、兼ねてから構想を練っていた折り鶴と今までの動画を編集して最後のあいさつを行った。担任の先生も秘密に (?) 児童から手紙を集めて製本して渡してくれ、感動の最終日となった。寮の部屋も初めの状態に綺麗に片付け、ホストマザーに借りたTVも輸送便で返却し、不必要なものはGoodWill (リサイクルショップ) に寄付して身辺整理を整えた。

帰国の日。朝早くのため前日の夜から寝ずに時差調整を行いCTA Blue Lineで空港へ。スーツケース等の荷物がかかなり重かったがなんとか無事に飛行機に乗ることができた。シアトルでの乗り継ぎは時間がなさすぎて走ったが、それ以降はこれと言って困ったこともなく落ち着いて帰国の途につくことができた。